

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270102132
法人名	有限会社 長建寄り逢い長崎
事業所名	グループホーム坂の上の紫陽花
所在地	長崎県長崎市本河内2丁目14-15 (電話) 095-825-8879
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年3月30日

【情報提供票より】 (平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	6 人 常勤 6人, 非常勤 人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,300~62,520 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		570 円	

(4) 利用者の概要 (3月30日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 89 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本内科医院 岩本歯科 十善会病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは坂の上の住宅密集地に位置し、社長の自宅を改造し開設された民家型ホームである。そのため自治会や周辺住民との関わりは深く、ホームの行事への参加、自治会の祭りへホームの参加などの地域との交流がもたれている。またホームの消火協力や徘徊時の住民からの連絡体制など連携体制が整っている。またホームは地域独居老人の訪問や宿泊の場になれるよう日頃より地域の老人たちとの交流の機会を設けたり、利用者の退所後の看取りから葬儀まで行うなど、福祉の原点に立ち実践におよんでいる。代表及び管理者はこれまでのホーム実績をふまえ、初心に戻り改めて介護の現場に挑む前向きな姿勢がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果については代表、管理者が職員に伝え改善に向けて取り組んでいるが、改善計画シートを活用するなど計画的な取り組みとはなっていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義は職員へ伝えられているが、自己評価は全職員が参加しての作成には至っておらず、内容も前年と同じものとなっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は概ね2ヶ月に1度実施している。構成メンバーは長崎市担当課職員、自治会会長、婦人部長、老人会会長、民生委員、家族代表、有識者である。議題は事業所の現状報告、地域の高齢化についての不安の相談などである。定期的に集まり話し合う場を持つことで地域全体で地域に住む高齢者への支援体制が生まれ、事業所はその一翼を担う立場にある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との会話を密にして意見などを直接話せる関係を作るよう取り組んでいる。苦情の受付窓口は内部、外部とも重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。要望が出た場合職員は随時話し合い、内容も申し送りなどに記録されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており当番で班長をしたり、夜警もしている。自治会の老人会「もみじ会」主催の公民館で行う運動会には利用者も一緒に参加している。近所を徘徊している高齢者については、住民から利用者ではないかと事業所に連絡があるなど、連携が深まっている。事業所は中学校の職場体験、ボランティアなどの受け入れを行い地域との交流をしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳」「のんびりゆっくり家庭的に」「地域の皆さんに理解してもらう」という理念を掲げ地域密着型サービスを基本としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表は、毎日のミーティング時に職員に必ず理念について話をしている。職員は理念を理解し、利用者の尊厳を守り、家庭的な生活を支援し、地域の方々とのあいさつを欠かすことなく毎日の業務に当たっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており当番で班長をしたり、夜警もしている。自治会の老人会「もみじ会」主催の公民館で行う運動会には利用者も一緒に参加している。近所を徘徊している高齢者については、住民から利用者ではないかと事業所に連絡があるなど、連携が深まっている。事業所は中学校の職場体験、ボランティアなどの受け入れを行い地域との交流をしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果については代表、管理者が職員に伝え改善に向けて取り組んでいるが、改善計画シートを活用するなど計画的な取り組みとはなっていない。また自己評価は全職員が参加しての作成には至っておらず、内容も前年と同じものとなっている。	○	自己評価作成は職員全員で取り組むことで、日々の支援の振り返りにもなるため時間をかけて全員で取り組むことが望まれる。また、改善点は改善計画シートを活用し、計画的に取り組む事業所の質の向上に役立てることを期待したい。

グループホーム坂の上の紫陽花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1度実施している。構成メンバーは長崎市担当課職員、自治会会長、婦人部長、老人会会長、民生委員、家族代表、有識者である。議題は事業所の現状報告、地域の高齢化についての不安の相談などである。定期的集まり話し合う場を持つことで地域全体で地域に住む高齢者への支援体制が生まれ、事業所はその一翼を担う立場にある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの連絡で3ヶ月に一度介護相談員の訪問があり、利用者や家族と話をしている。市から訪問日程の知らせがあると、事前に掲示板に掲示するため家族も一緒に介護相談員と話すことができている。また、代表や管理者は必要に応じて市担当課に連絡を取っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問回数も多く、職員は声をかけて利用者の状況などを報告している。花見などの行事に家族が参加したり、受診の際に同行してもらい主治医に説明を受けるなど、健康状態についても共有できるよう取り組んでいる。月に一度請求書を発送する際に立替えた分の請求も同封し、領収書を渡している。体調の変化などは随時電話で連絡している。職員の異動については面会時などに家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付窓口は内部、外部とも重要事項説明書に記載し、契約時に説明している。また家族との会話を密にして意見などを直接話せる関係を作るよう取り組んでいる。要望が出た場合は職員で随時話し合い、内容も申し送りなどに記録されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表、管理者は職員が退職することは利用者へのダメージが大きいと認識しており、職員との会話をもち相談に対応するよう取り組んでいる。今年は退職、異動もなく利用者への支援も変化なく継続して行っており、利用者も落ち着いて生活している。		

グループホーム坂の上の紫陽花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、段階に応じて実践者研修、管理者研修を受講し、身体拘束の研修も受講している。内部研修は勤務終了後に4時間をかけて実践的な内容の研修を行っており、職員は全員受講している。ただし、外部研修受講・報告はあるが、全職員の計画的な研修受講、資料の回覧・保管による自由な閲覧までには至っていない。	○	経験年数に応じて職員のレベルアップにつながる外部研修の計画的な受講を企画することは利用者へのサービスの質の向上にもつながるため検討が望まれる。また、研修資料は全職員に回覧し、いつでも閲覧できるよう保管することが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は他同業者と交流しており、運営に関わる情報交換もできる関係がある。また同じ心療内科に通院支援をしている事業所の運営者、管理者、ケースワーカーなどが集まる会があり、参加して悩みを分かち合い話しあっている。職員は法人内の事業所同士で交流し情報を共有し互いにサービスの質の向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの紹介で利用開始となる場合が多く、連絡があると管理者が自宅や病院を訪ねて本人と面談している。その後、家族と本人の見学を受入れ、生活歴を聞き出し記録し、事業所の説明をし契約となる。身寄りのない利用者も多く、利用開始時は管理者、職員と一緒に過ごし不安を軽減し、場の雰囲気に馴染めるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活してきた習慣が変わらないように支援することを基本としており、その中で昔の話の聞き茶碗洗いなどを一緒にしている。物を大切にしている様子を見て話しかけると昔苦労した経験などを聞くきっかけになり、職員は学ぶことも多い。		

グループホーム坂の上の紫陽花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	はっきりと意向や希望を表出される利用者には希望に合わせて支援している。表情から汲み取る必要がある利用者には、職員が本人の様子を注意深く見ながら、変化があると声をかけ本人の意向に沿うよう支援に取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族の希望を聞き、職員の日々の記録を中心に、受診時にかかりつけ医に尋ねて指示がある場合は反映させ作成している。ただし、職員が記入する日々の個人記録が、改訂を重ねているものの、介護計画と連動しておらず、介護計画書の様式も検討を重ねてあるが次の計画につながる箇所がない。	○	毎日の支援は介護計画を基本に行われ、個人記録は次の計画を行うための評価につながるものであると捉え、様式に再考を期待したい。また介護計画書様式も再度検討が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期3ヶ月長期6ヶ月の見直しを行っている。毎月のアセスメントの中で利用者の状態の変化があった場合や、医師の指導をうけた場合など随時介護計画の見直しを行っており、家族・本人の確認を取っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者希望の理髪店に出かけたり、月命日法要のため自宅に戻ったり、確定申告など出かけたりしている。また入院時はお見舞いや洗濯物を引き受けたりしている。		

グループホーム坂の上の紫陽花


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続は可能であり、現在も数名継続している。受診には家族の協力を得ているが、職員が同行する事も可能である。病院受診などがあつた場合は家族へ電話連絡がされている。協力医との連携もとれており、月2回の往診をしてもらい利用者の健康管理を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に看取りに関する指針が明記されており、説明後同意書も作成されている。また、利用者の状態変化があつた場合は、医療機関と連携し医師から家族への説明がなされ、再度確認を行っている。職員には入社時よりホームの方針を伝えており、緊急時の対応など話し合いを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の守秘義務の誓約書を作成し、家族からは個人情報に関する同意書を得ている。個人記録など書類は事務スペースの目につきにくい所に保管されている。職員は利用者の尊厳を大切に思い、日常の言葉遣いに気を遣っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の望みを知るために、会話の中で尋ねる事を常に行っている。またホームでは、起床時間や日中居室で休んだりなど各々の思うように過ごすように支援している。		

グループホーム坂の上の紫陽花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を尋ねて献立を作っている。食事の準備の様子はリビングや居室へ音や匂いで分かり、利用者も楽しみにしている。職員は利用者と同じ食事を同じテーブルでとり、会話をしながら介助支援を行っている。盛りつけや配置など咀嚼力や能力に応じて気を遣っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月水金と決まっているが、利用者の状況に応じて足湯など行われている。また入浴の強制は行わず入浴前のバイタル確認時に尋ね、拒否の場合も理由を聞いたり、時間をおいて声かけしたりしている。湯温度は利用者の好みに応じている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴や会話の中から利用者の楽しみごとを汲み上げている。日中、浪曲のテープを聴いたり、リビングで歌を歌ったり、趣味の短歌を楽しんでもらったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関アプローチに手すりを設けており、日々散歩をしてもらえるようにしている。また季節の行事を企画し、桜を見に出たり、利用者全員で出かけたりしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは夜間以外の施錠はしていない。玄関チャイムと職員の見守りで対応している。地域住民と連携がとれており、声かけをしてくれている。また巡回の警察官とも利用者の情報を共有している。		

グループホーム坂の上の紫陽花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は夜間想定も行われている。不定期の避難訓練を頻繁に実施しており、訓練後の反省会を行い、職員の火災に対する避難誘導・連絡・防火意識の向上をはかっている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1200cal、水分は1800mlを目安に、利用者の体調に応じて気を遣っている。摂取量は個人記録へ記載され管理されている。職員は利用者それぞれの咀嚼能力や食べるペースを周知し対応している。食事の他におやつの時間に調整したりしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節の飾りなされている。ダイニングテーブル、ソファは利用者が思い思いに過ごせるように配置されている。玄関アプローチや浴槽、トイレなど利用者の残存能力を最大限発揮できるよう、手すりの配置などバリアフリー対応に改造されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者の馴染みの家具や品物、テレビなど持ち込む事が可能であり、部屋の配置も利用者の利用しやすいように家族の協力を得ながら工夫されている。加湿器の設置や、各利用者の好みの室温なども職員は気を配り、調節している。		

※  は、重点項目。